

令和7年度 学校関係者評価報告書

大阪市立 大正中央中学校 学校協議会

1 総括についての評価

令和7年度の「中学生チャレンジテスト」の3年生の結果においては大いに評価できる。不登校生徒の在籍比率については、依然として難しい状況が続いているが、粘り強く取り組んでいただけている。学習者用端末の活用を進め、「学校はICT機器を活用した教育に取り組んでいる」の項目についても、保護者から目標を上回る肯定的な回答を得ることができており、今後も取り組みを継続して実施していただきたい。生成AIの活用など、教育現場に求められる幅が広いことは承知しているが、今後の教育活動に期待したい。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：【安全・安心な教育の推進】

- ・校内調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」について、生徒の最も肯定的な回答の目標値85%を83.6%と下回っているが、高水準を維持できており学校での様々な取り組みが効果的に表れている結果だと評価できる。
- ・不登校生徒の在籍比率については、増加傾向にあるが、家庭と連携して改善に取り組んでいただいている。
- ・校内調査の「学校の規則や社会のルールを守っている」について、生徒の肯定的な回答の目標値90%を96.6%と上回っており、昨年度に引き続き生徒の規範意識の高さがうかがえた。
- ・他の校内調査の数値においても、目標値を上回っており、今後の学校教育に期待したい。

年度目標：【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・校内調査の「話し合い活動を通して、他の人の意見を聞くことで自分の考えを深めることができている」について、生徒の最も肯定的な回答の目標値35%を21.5%と下回っており、目標を達成できていない。総合的読解力育成カリキュラムや探究学習などの学校の取り組みとしては評価できるので、今後は目標達成に向けてさらなる取り組み内容の工夫をしていただきたい。
- ・令和7年度の「中学生チャレンジテスト」における各教科正答率の大阪府平均との差について、3年生は（国語：0.93→1.03、数学：0.87→1.01）、2年生は（国語：0.83→0.86、数学：0.74→0.71）であった。3年生において目標値を達成し、さらには大阪府平均を超える成果を上げたことは大変評価できるが、2年生においては大阪府平均を大きく下回っているため、今後の学力向上に向けての取り組みに期待したい。
- ・大阪市英語力調査における、CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）は50.0%で、前年度の35.5%を大きく上回っており、さらに大阪市としての目標値も達成することができている。以前から実施しているスピーキング練習としての帯学習が実を結んだと評価でき、今後も継続して実施していただきたい。
- ・校内調査の「学校の時間以外の家庭学習」について「1時間以上」と回答した生徒の割合は平日52.5%、休日42.3%であり、前年度の平日52.6%、休日37.6%と休日のみ大きく上回っている。各教科から出される日々の課題や進路を意識したキャリア教育が休日の家庭学習を推進していると評価でき、今後も継続して実施していただきたい。
- ・「全国体力・運動能力、運動習慣等調査における、2種目を大阪市平均以上にする」という目標

について、男子で3種目、女子で5種目達成できている。また、校内調査の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」について、生徒の最も肯定的な回答の目標値60%を52.5%と下回っている。校内調査での意識は目標値から下回っているが、全国体力・運動能力、運動習慣等調査については目覚ましい成果を上げているので、今後は意識を含めて運動することの素晴らしさについて指導していただきたい。

年度目標：【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕
 - ➡ 48.4%
 - ・年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を97%以上にする。
 - ➡ 100%
 - ・年度末の校内調査における、「学校はICT機器を活用した教育に取り組んでいる」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を88%以上にする。
 - ➡ 91.0%
- ・「授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする」という目標について、48.4%と目標値に迫る成果を残しており、以前より学習者用端末の活用を推進してきている取り組みの結果であると推察できる。学習者用端末を文房具の一つと捉え、当たり前活用できる教育活動の推進に努めていただきたい。
- ・校内調査の「学校はICT機器を活用した教育に取り組んでいる」について、保護者の肯定的な回答の目標値88%を91.0%と上回っており、今年度の取り組みを評価できる。研究授業でも拝見させていただいたが、AIの活用等子どもたちは当たり前ICT機器を活用できる力を身につけなければならないので、今後も継続して学習者用端末の活用を推進していただきたい。
- ・働き方改革の取り組みについて、今年度は「学期末懇談会の廃止」などを活用し先生方が年次有給休暇を取得しやすい環境整備に努めていることは評価できる。ほとんどの先生方が、年次有給休暇を10日以上取得するという目標値を達成できていることも評価でき、今後もさらなる取り組みの発展に期待したい。

3 今後の学校園の運営についての意見

- ・先生と生徒の距離感が友だちのようになってしまっている場面が見られた。社会に出た時のことも考慮し、言葉遣いや礼節に関する指導については丁寧に行っていただきたい。
- ・生成AIを学習に使用する際の成果物に対する評価については、十分に注意していただきたい。先生方の見抜く力に期待している。
- ・AIに関する学習も大切であるが、AIに頼ることのできない人対人の学習も大切にしていきたい。
- ・チーム担任制については不安もあったが、先生方の多くの目があって良い取り組みだと思う。年度当初の保護者への丁寧な説明があれば、なお良い取り組みになると感じている。